

令和8年度当初予算 概要

令和8年2月
都市整備局

1 令和8年度 予算規模

(単位:百万円)

	令和8年度 当初予算案(A)	令和7年度 当初予算(B)	増減 (A)－(B)
一般会計	30,055	33,246	▲ 3,191
土地区画整理 特別会計	5,599	6,015	▲ 416
住宅新築資金等 貸付特別会計	1	1	0
土地取得 特別会計	2,680	3,227	▲ 547
合計	38,335	42,489	▲ 4,154

※職員給与費を除く

2 主要施策

道路ネットワークの整備

【3, 701百万円】

主要な街路・道路事業を重点的かつ速やかに整備し、物流ネットワークの機能強化、地域間の連携・交流促進、市内の渋滞対策を実施します。

◆都市計画道路戸畑枝光線、主要地方道恒見朽網線、国道3号黒崎バイパス(国土交通省直轄事業)など

環状放射型ネットワークの構築



幹線道路の整備による効果

渋滞の解消

交通の分散による、**所要時間の短縮**

【例】黒崎バイパス春の町ランプの開通による効果
陣原～春の町の所要時間：約 **18分**短縮（約24→6分）

円滑な通行の確保による、幹線道路の**事故の抑制**

抜け道利用の通過交通排除による、**通学路等の安全確保**



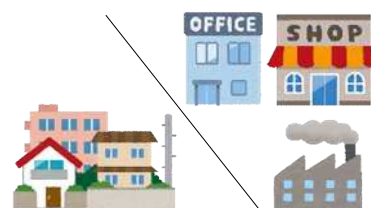
災害時の安定的な人流・物流の確保



企業立地や住宅開発等の促進

【例】黒崎バイパスのランプ10分圏域での状況（H20→R6）

- ・企業立地 約 **13倍**（7→94社）
- ・共同住宅の分譲 約 **20倍**（7→141棟）



主要河川の整備

【1,074百万円】

近年、激甚化・頻発化する豪雨災害等の浸水被害を抑制するため、治水事業の根幹となる河川改修を実施します。

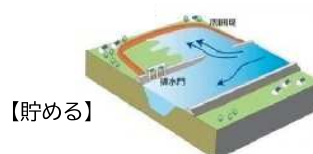
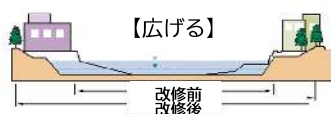
◆紫川、神嶽川、板櫃川、相割川 など

＜被害状況＞平成30年7月豪雨:市内では、1時間あたり70mm前後の大雨が降り、31河川において、氾濫による浸水被害が発生
令和7年8月豪雨:市内では、1時間あたり70mm前後の大雨が降り、21河川において、氾濫による浸水被害が発生



治水対策の基本的な考え方は、**「河川の水位を下げること！」**

「広げる」「掘る」「貯める」により、川の水位を下げます。



こどもまんなか公園整備事業

【25百万円】

「こどもまんなかシティ宣言」に基づく、北九州市のアクションの一環として、こどもの意見を取り入れた、こども目線による「こどもまんなか公園」づくりを行い、こどもや子育て世帯が憩える環境づくりを推進します。

若者文化を取り入れた公園

- ・戸畑区の高校生から寄せられた「まちに居場所が欲しい」という意見を契機に、高校生によるワークショップを実施。
- ・汐井町公園を3on3バスケットボールを通じて他校生徒と交流できる場として企画し、その実現に向け、期間限定でバスケットゴールを設置する社会実験を行った。
- ・社会実験結果を踏まえて、令和8年度は、汐井町公園にバスケットゴールを設置する。

【社会実験の様子】



旦過地区再整備事業

【3,374百万円】

【うち122百万円は、「主要河川の整備」の再掲】

神嶽川の浸水対策や旦過市場の建物の老朽化などの防災面の課題を解決するため、旦過地区の土地区画整理事業と河川改修事業を一体的に実施します。

旦過地区の現状



H22年の浸水状況



河川上空に張り出した店舗



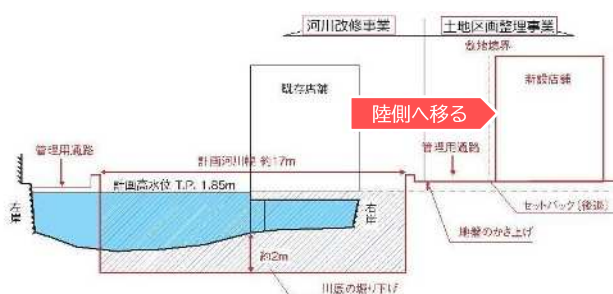
小規模な建物が密集

旦過地区の課題

河川改修だけを実施した場合、市場通りに面した多くの店舗の移転が必要となり、市場の対面販売等の魅力・にぎわいが大きく失われるおそれがある。

再整備イメージ

神嶽川河川改修と土地区画整理事業を合わせた旦過地区のまちづくりが必要



標準断面図



完成イメージ(今後、変更になる場合があります)

折尾地区総合整備事業

【2,853百万円】

折尾駅を中心とした既成市街地を学園都市の玄関口にふさわしい地域拠点として再整備するため、連続立体交差事業・街路事業・土地区画整理事業を一体的に実施。

民間開発の促進に向けた駅南側の整備

新ビジョン「彩りあるまち」の実現に向け、**令和8年度の完成を目指している折尾駅南側駅前広場やアクセス道路の整備**を重点的に進めていくとともに、駅広周辺街区の建物移転補償及び宅地整備を進める。

また、折尾地区のポテンシャルを生かし、**民間投資を呼び込み**、**市内外からZ世代を含め新しい人が集まり、住みたくなるような魅力的な街づくりを進める。**

効果1

駅や駅前広場の整備による交通結節機能の向上



効果2

土地区画整理事業による住環境の改善



効果3

民間投資の促進や地域の活性化に大きく寄与し、活力のあるまちが実現



折尾駅南側開発イメージ

3 主な事業

「稼げるまち」の実現

●稼げる「基盤」をつくる

- ・道路ネットワークの整備 3,701百万円
(他に債務負担320百万円)

主要な街路・道路事業を重点的かつ速やかに整備し、物流ネットワークの機能強化、地域間の連携・交流促進、市内の渋滞対策を実施

- ・若戸大橋・若戸トンネルの強靱化 1,508百万円
(他に債務負担230百万円)

若戸大橋・若戸トンネルにおける日常的な維持管理や早急に補修が必要な箇所の修繕、及び橋梁の塗装等を実施

- ・安定的な物流確保に向けた道路施設の強靱化 2,411百万円
(他に債務負担320百万円)

平常時・災害時を問わず、安定的な物流・人流を確保するため、定期的な点検の結果に基づき、橋梁やトンネル、モノレール、アンダーパス等の状態に応じた計画的な修繕・耐震工事を実施

- ・企業誘致に伴う渋滞対策 47百万円

今後も企業進出が見込まれる若松区響灘地区において、予想される交通量の増加に対応するため、交差点改良などの渋滞対策を行う

「彩りあるまち」の実現

●彩りある「空間」をつくる

- 拡充** ・こどもまんなか公園整備事業 25百万円

「こどもまんなかシティ宣言」に基づく、北九州市のアクションの一環として、こどもの意見を取り入れた、こども目線による「こどもまんなか公園」づくりを行い、こどもや子育て世帯が憩える環境づくりを推進

- 拡充** ・公園トイレ整備事業 48百万円

女性が快適に過ごせる街づくりの一環として、「汚い、暗い、臭い、怖い」といったイメージのある公園トイレに対し、女性も安心・安全に利用できるように女性の声を聞き、快適なトイレを整備

- 拡充** ・雑草対策の推進 1,694百万円

北九州市「クリーンタウン」プロジェクトの柱の一つとして、美しく、安心・安全なまち北九州の実現を図るため、道路・河川・公園において、より効果的・効率的な除草・防草対策を推進

- ・折尾地区総合整備事業 2,853百万円
(他に債務負担 254百万円)

折尾地区で抱える「鉄道による市街地の分断」や「踏切による交通渋滞」、「古くからの密集市街地の存在」などの課題を総合的に解決するため、①鉄道と道路の平面交差を解消する連続立体交差事業、②駅周辺の道路整備を行う街路事業、③駅南側の住環境の改善を行う土地区画整理事業の3事業を一体的に実施

- ・旦過地区再整備事業（一部再掲） 3,374百万円
(他に債務負担 81百万円)

旦過地区の土地区画整理事業と神嶽川の河川改修事業を一体的に実施。
神嶽川の浸水対策や旦過市場の建物の老朽化など、防災面の課題を解決するとともに、都心部のさらなる賑わい創出を図る

- ・桃園公園等施設再配置計画推進事業 310百万円

個々の施設の老朽化、公共施設マネジメントによる施設の見直しや、本市の西部地区を代表するスポーツの重要な拠点としての機能強化を図るため、桃園公園・城山緑地施設再配置計画を策定し、整備を実施

- ・道路サポーター事業 19百万円

まちの能力・心の豊かさ・まちへの愛着を高めるため、道路の清掃や花壇の手入れなどのボランティア活動を行う地域の団体を継続的に支援し、市民と協働で美しいまちづくりを進める

- ・河川愛護団体補助事業 1百万円

河川の清掃や草刈などのボランティア活動を行う地域の団体を支援し、市民との協働による河川環境の保全に努める

- ・公園愛護会補助事業 5百万円

公園の除草や清掃、花壇づくりなどのボランティア活動を行う地域の団体を支援し、市民との協働による美しい公園づくりに努める

●彩りある「時」をつくる

- ・皿倉山リニューアル事業 30百万円

皿倉山リニューアル計画に基づき、山頂付近での賑わい創出のための整備を実施

「安らぐまち」の実現

●生活基盤の「安心」を支える

- 新規** ・持続可能な住宅セーフティネット・住まい環境改善モデル事業 72百万円

大規模な市営住宅団地において、リノベーションによる団地内集約のモデルとなる取組等を検討・試行する

- 新規** ・市営住宅活性化促進事業 (市営住宅整備・管理事業 一部再掲) 6百万円

応募の見込めないエレベーターのない4、5階の住戸などについて、目的外使用の拡大により、学校や企業等の団体に貸出しを行い、居住環境の安定や地域コミュニティの活性化、入居率の向上を図る

新規 ・市有建築物維持管理推進事業 8百万円

市民の持続可能で安心・安全な施設利用のため、北九州市住宅供給公社による市有建築物の維持管理(定期点検及び軽微な工事)を実施するための体制づくりを行い、市有建築物の品質確保、予防保全を推進

新規 ・市有建築物の脱炭素化推進事業 9百万円

建物の断熱化や設備の高効率化・小型化により、光熱費だけでなく、更新費等の投資的経費も最小限に抑える「新しいZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)」の考え方を導入した「市有建築物のZEB化設計指針」に基づき、市有建築物の脱炭素化を推進

新規 ・区役所窓口業務アップデート事業 5百万円

市民サービスの維持・向上を目的とし『持続可能な業務体制の構築』に向けて、DX化の推進や業務フローの構築等による業務の効率化や事務改善に取り組む

・公民連携によるセーフティネット住宅供給促進事業 6百万円

今後、増加が見込まれる高齢者等の賃貸住宅ニーズに対して、居住支援法人等と連携して、市営住宅の空き家を活用したセーフティネット住宅の供給促進を図るとともに、市営住宅の跡地を活用し、公民連携により、まちのリニューアルを推進

・主要河川の整備 1,074百万円
(他に債務負担 81百万円)

市内を流れる主要な河川について、浸水被害を未然に防ぐため、計画的に河川改修を行う

・豪雨災害から市民を守る緊急対策事業 509百万円

平成30年7月、令和7年8月豪雨により被害が発生した河川の改修や河川情報システムの強化等により、市民が安全・安心を感じるまちづくりを推進

・市営住宅整備・管理事業 4,629百万円
(他に債務負担 913百万円)

北九州市公共施設マネジメント実行計画に基づき、老朽化した市営住宅の計画的な建替えによる集約再配置や長寿命化工事等に取り組むとともに、住宅に困窮する市民の居住の安定を図るため、市営住宅の適正な管理を実施

●暮らしの「安心」を支える

・安全で快適な歩行空間の整備（一部再掲） 649百万円

すべての人が安全で快適に歩行できるよう、歩道の新設や拡幅、段差の解消を行うなど、利用しやすい歩行空間の整備を推進

●子ども・子育ての「安心」を支える

・通学路の安全対策の強化 1,511百万円

登下校中における児童生徒の更なる安全確保のため、学校や警察等の地域と協働しながら、潜在的な危険箇所を把握し、効果的な安全対策を実施

【問合せ先(全体に関すること)】
都市整備局 総務課
TEL 093-582-2252